



① 園で起きている問題の正体

園で日々起きている混乱や不安は、個人の能力や努力の問題として語られがちです。しかし実際には、そこにあるのは「人の問題」ではなく**構造の問題**です。表面に見える出来事の背後には、共通した原因が存在しています。

1. 属人化の弊害

業務の進め方や対応方法が、経験のある特定の職員に依存してしまう状態です。

ベテランがいれば回る。いなければ止まる。

一見うまく運営できているように見えても、実際には「人が仕組みの代わり」をしている状態です。

この状態では、

- 新人は判断の拠り所を持たず不安になる
- ベテランに負担が集中する
- 指示の意味が理解されないまま形だけが残る

結果として、教えても育たず、頼られる側も疲弊していきます。



2. 判断基準のバラつき

同じ出来事でも、職員によって対応が変わる。これは能力差ではなく、**基準の不在**によって起こります。

- 園長の考え
- 主任の経験
- その日の当番の判断

どれも間違いではありませんが、統一されていないことで現場に迷いが生まれます。

迷いは確認を増やし、確認は時間を奪い、時間の不足は余裕の不足へとつながります。

そして保護者から見ると、「先生によって言うことが違う園」になります。

3. 引き継げない園文化

理念や大切にしている考え方は存在していても、それが言語化されていない場合、継承は人に依存します。

「前の主任は分かっていた」「昔はこうしていた」この言葉が増えるほど、文化は共有財産ではなく記憶になります。

人が入れ替わるたびに園の雰囲気が変わるのは、文化が消えたのではなく、**仕組みになっていない**ためです。

4. 離職が起きる構造

離職は突然起きる出来事のように見えます。しかし実際には、次の流れの積み重ねで起きています。

迷う → 確認する → 時間が足りない → 抱え込む → 疲れる → 不安になる


つまり離職の原因は人間関係だけではありません。

判断できない環境が続いた結果として起きます。責任が重く、基準が曖昧で、支えがない状態では、真面目な職員ほど限界に達します。

問題の本質

これらはすべて別の問題に見えますが、根は一つです。

「**判断を個人に委ねている構造**」人が悪いのではなく、人に頼らざるを得ない仕組みになっていることが原因です。だからこそ必要なのは、努力や指導の強化ではありません。**誰がいても同じ基準で支えられる「判断の土台」を持つことです。**

この号について園でも話し合ってみよう 



キャンペーン中

ご契約園に
2冊を無料贈呈!!

2026年末まで

1

AIが答える
保育100の疑問



2



1

AIが答える保育100の疑問
— はじめての園でもできる やさしいAI活用 —

130ページ 定価 2,000 円 (消費税別)

2

保育の質を変えるAI

90ページ 定価 1,000 円 (消費税別)

チャイルドAIアシスタントハウス
https://www.aken.co.jp/item_house.html



https://www.aken.co.jp/item_navi.html



お問い合わせ

株式会社 AI研究所



ai@aken.co.jp



<https://www.aken.co.jp/>

